宮本英威 著
『ブラジルが世界を動かす ―南米の経済大国はいま』

平凡社　2024 年　296 ページ
ISBN 978-4582860689

本書は、「ブラジルのいまを知るための入門書となることを意図して」おり、著者が日本経済新聞社の記者として合計 7 年半、ブラジルに駐在した際に執筆した記事を土台に出版された。著者は長年にわたり現地で取材やインタビューを重ね、豊富な経験とそれにもとづく見識を深めてきた。人々の実際の言葉や現地の写真などとともに、それらが本書の至るところに散りばめられており、本書の構成にも反映されている。

本書は巻頭末の「はじめに」と「おわりに」、「序章」と「終章」、および、ブラジルが注目を集めるテーマから成る 6 つの章で構成されている。また各章の最後には、2023 年に 3 回目の大統領となったルーラ（本書では「ルラ」表記）をはじめ、取り上げるテーマに即した「キーパーソン」を計 8 人紹介している。「どのような背景をもつ人がブラジルを動かしているのかを知ってほしい」という、著者の思いから生まれた構成とのことである。

序章で「多様性の国」ブラジルについて近年の変化を含め概説し、第 1 章【政治】「右派と左派の対立―大統領選とルラの復権」では、国民間の政治的な分極化の様子を解説する。第 2 章【外交】「国際社会の新秩序構築へ―米中の間で立ち位置を模索」では、ブラジルが第 3 次ルーラ政権下でグローバルサウスとして再び注目されるようになり、第 3 章【環境】「熱帯雨林アマゾンの保護―国際交渉の最前線」の分野で存在感を増していることについて述べる。第 4 章【農業・産業】「世界の供給源―コーヒーや鶏肉から飛行機まで」、および、第 5 章【デジタル・金融】「『国民総電子決済』へ―PIX で狙う世界覇権」では、ブラジルのアグリビジネスや IT 化の振興、そして結果としての世界や南米での影響力の増大について詳説する。そして、第 6 章【日本との関係】「進む民間協力―距離の壁越えパートナーに」では、主に企業という観点から日本とブラジルの関係について論じ、終章で「未来の大国」と言われるブラジルの最新の状況などを取り上げている。

ブラジルだけでなくメキシコにも駐在した著者が帰国したのが 2024 年 4 月であり、本書は現地の最新かつ豊富な情報などを満載している。それらが、タイトルの「ブラジルが世界を動かす」という論旨をもとに展開されていると、ストーリーがより明確になるのではとも感じられたが、「ブラジルのいまを知るため」に必読の書だといえる。

近田亮平（こんた・りょうへい／アジア経済研究所）

本記事は、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際（CC BY 4.0）ライセンスのもとで提供されています（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed）。オリジナルの出典と著者を表示することを条件として、自由に配布、複製、利用することができます。

https://doi.org/10.24765/latinamericareport.42.2_42
©IDE-JETRO 2025